



# レスキューロボットコンテスト

## ご支援(寄付)のお願い

2026年1月  
(2026.1.26版)

1995年の阪神・淡路大震災の教訓を未来へつなぐため、私たちはレスキューロボットコンテスト(レスコン)を2000年から毎年開催しており、今年も8月に開催いたします。私たちの理念は「技術を学び、人と語らい、災害に強い世の中をつくる」です。レスコンを通じて、未来の防災・減災を支える技術と人材の育成、防災・減災意識の向上とレスキューロボットへの理解増進を目指してまいります。

本コンテストを更なるものにするため、企業様や助成団体様からのご支援をいただいておりますが、それだけでは十分ではありません。つきましては、レスコンの充実・発展を図るため、広く一般に寄付を募ることいたしました。法人・団体の皆様、一般の篤志家の皆様におかれましては、本活動の趣旨にご賛同いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人レスキューロボットコンテスト  
レスキューロボットコンテスト実行委員会



# レスキューロボットコンテスト(レスコン)とは

レスキューロボットコンテスト(レスコン)は、阪神・淡路大震災をきっかけとして始まったレスキューを題材としたユニークなロボット競技です。学生・社会人がチームを組織し、被災建物の模型から、要救助者に見立てた人形(愛称「ダミヤン」)を救助します。参加チームは、壁を隔てた場所から搭載カメラの映像を頼りに、複数の自作ロボットを操縦しレスキュー活動を行います。

本コンテストには、レスキューロボット実現に向けて重要な技術的エッセンスである『遠隔操縦技術』、『対象をやさしく扱う技術』、『複数ロボットの協調技術』や、人間の操縦技能やチームワークなどが盛り込まれています。

**レスコンは、単なるロボット競技ではなく、以下を目的としています。**

## 1. 防災・減災に関わる人材育成と、挑戦の場をつくります

災害に備え、被害を最小限に抑えるための科学技術を生み出し、実用化するには、世代を超えて研究・開発・試験等の継続が必要です。レスコンは、競技会の形で災害救助の場で役立つ技術に挑戦し、新アイデアを試す場を提供することで、これらの人材育成を支えます。

## 2. 防災・減災の普及啓発と、科学技術の裾野を拡げ育みます

競技参加チームのみならず、来場された全ての方々にも、防災・減災を広く啓発することで、災害への備えを促し、またロボット競技から防災・減災技術に興味をもち、将来人の役に立ちたいという子ども達が、将来活躍できる道筋をつくることで、科学技術の裾野を広げ育むことです。

レスコンのコアコンセプトは「やさしさ」です。やさしさが育む科学技術の裾野が広がっていくことで、人間や環境にやさしい持続可能な次世代の科学技術を創出できると考えています。その一助となるべく、私たちレスキューロボットコンテスト実行委員会は、「技術を学び、人と語り、災害に強い世の中をつくる」という理念の下に活動しています。

## レスキューロボットコンテスト2026 開催概要

### ■チーム募集期間 : 2025年12月1日(月)～2026年1月31日(土)

2025年12月7日(日) レスキューロボットフォーラム2025(説明会)  
2026年2月中旬 書類審査結果発表(最大28チームを選出)

### ■ロボット製作期間 : 2025年2月下旬～6月頃

2026年3月下旬 通信ボード講習会  
2026年6月16日(火) ビデオ審査予選 提出締切  
2026年6月30日(火) 競技会本選進出 12チーム発表

### ■競技会

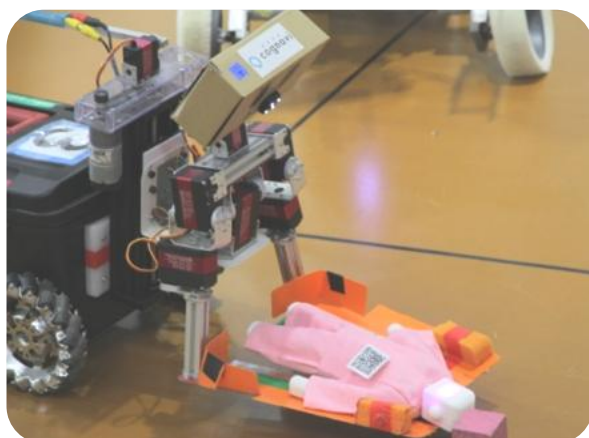
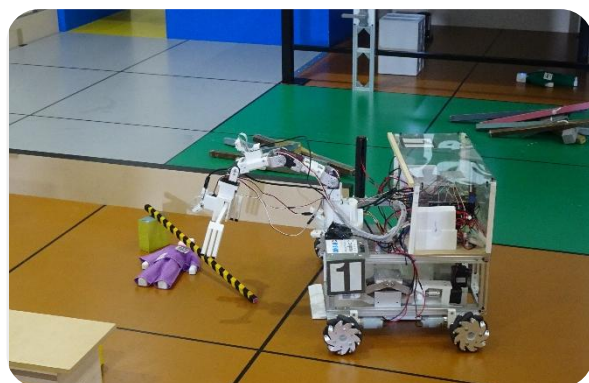
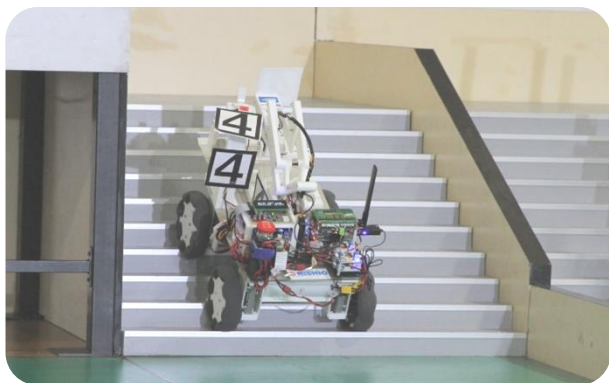
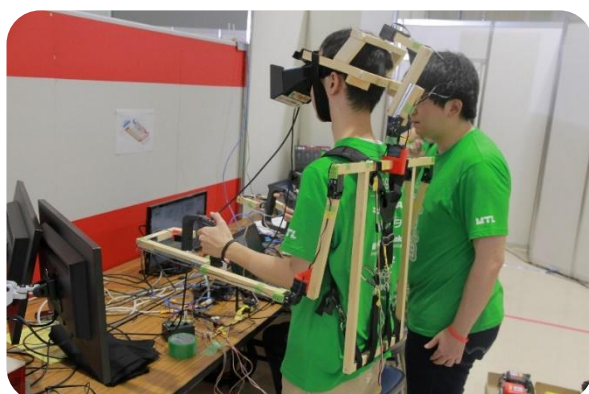
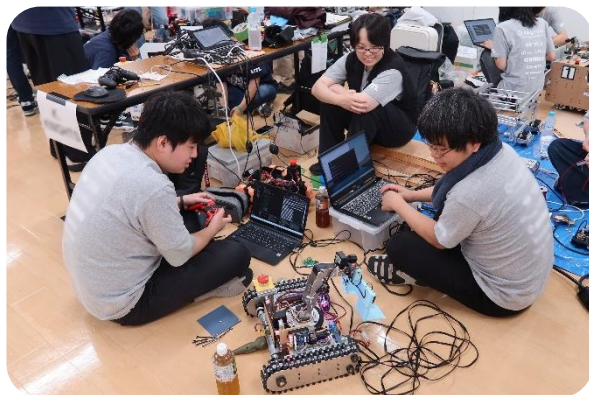
2026年8月8日(土)～9日(日)競技会本選

※ライブ配信を予定

会場: しあわせの村 体育館  
(神戸市北区しあわせの村1-1)

参加チーム数: 12チーム(100名程度)、  
一般来場想定: 2,000名





# レスキューロボットコンテストのご支援(寄付)について

## 災害に強い世の中をつくりたい、 レスコンの継続開催のために、ご支援をお願いします

これまでレスキューロボットコンテストは、多くの皆さまのご理解、ご支援により支えられ、2025年に25周年を迎えることができました。関わってくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。今後も、災害に強い社会の実現につながる本コンテストを継続開催していきたいと考えております。

経済状況厳しい折、誠に恐縮ではございますが、レスキューロボットコンテストの開催趣旨にご賛同いただき、格別のご支援とご協力をお願い申し上げます。

### ■ご支援を受けて行う事業

#### レスキューロボットコンテストおよび関連事業に関する経費

- ・競技会運営費  
(パンフレットA4両面印刷・2,000部を予定、貸与機器費、表彰楯等の準備など)
- ・資機材の開発費  
(競技フィールド、評価システム)
- ・広報・通信費  
(WEBサイト・SNS運営費、競技配信費、記録映像費)
- ・会場設営費  
(会場費、音響照明費用)
- ・その他 資材管理費、法人運営費



#### 競技会運営費



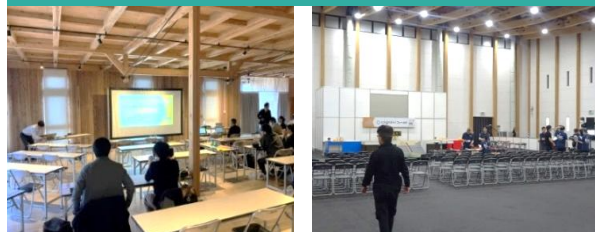
#### 資機材開発費



#### 広報・通信費



#### 会場設営費



## ■ご支援(寄付)について

### 1. 寄付金額

1口1万円よりお願いしております。

### 2. 受付期間

年間を通じて受け付けております。

### 3. 本法人(一般社団法人)へのご寄付に対する税制優遇措置

個人の場合: 控除の対象になりません。

法人の場合: 一般寄付金の損金算入限度額の計算の枠内で一定額まで損金算入できます。

## ■ご支援の申込方法および手続き

### (ア) ご支援のお申込み先

- ・ Web フォームからのお申込み:

右のQRコードを読み取り、  
必要事項を記入した後、送信してください。

- ・ それ以外のお申込みをご希望される場合:

下記の間合せ先にご連絡をお願いいたします。

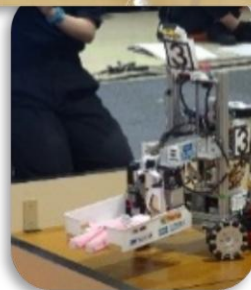
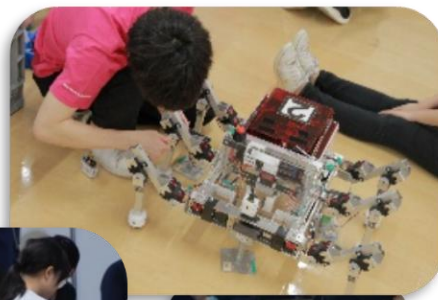


### (イ) ご寄付の送金手続き

ご寄付のお申込みを確認した後に、振込先の口座情報をメールで連絡いたします。

お問合せ先: 一般社団法人レスキューロボットコンテスト事務局

Email: corporation@rescue-robot-contest.org



# 資料1:レスキューロボットコンテスト 競技の概要

会場を「国際レスキュー工学研究所」と想定し、大地震で半倒壊となった建物内部を模擬した1/4スケールの実験フィールドの中から、要救助者を模擬した人形(ダミヤン)を探し出し、救助する競技です。

## フィロソフィー(理念と基本姿勢)

レスキューロボットコンテストには、レスキューに関する社会的理解を深めていただく一手段としての意味を付しています。そのため、本コンテストには、以下の理念と原則、そしてコアコンセプトがあります。

**理念:「技術を学び、人と語らい、災害に強い世の中をつくる」**

**原則:「レスコンの背後には、常に現実のレスキュー活動が控えている」**

**コアコンセプト:「やさしさ」**

## ストーリー

ここは、「国際レスキュー工学研究所」だ。この研究所では、レスキューシステムに関する技術に対して、競技形式で機材や操縦技術の高度化が行われている。研究所内には、大地震で半倒壊となったビルや施設を模擬した1/4スケールのテストフィールドが構築されており、想定されている災害シナリオに対して、提案システムの評価を行うために、今、まさにレスキュー訓練が開始されようとしている。

## 1/4スケールのテストフィールド

**スタートエリア:**倒壊建屋の進入口、ロボットのスタート地点です。

**共通(通路)エリア:**ルームを繋ぐ廊下、設置された障害物は救助活動に影響あり。

**救出エリア:**ダミヤンを搬送する、ゴールとなるエリアです。

**ルーム:**被災状況の確認や、ダミヤン救助を行う。内部が暗いこともあります。



**ダミヤン:**要救助者を模した人形で、搭載センサで要救助者が感じる苦しさを検出します。

**階段:**1階と2階とを行き来するもの、共通エリアの一部。



**狭隘・閉鎖環境:**狭い環境は活動が行いにくく、情報も得にくいエリアです。



**作業対象:**安全な救助活動や、二次災害防止のため、ロボットが行う作業を設けています

**障害物:**

撤去することで、安全な搬送ルートを確認します。



**ブレーカ:**

二次災害防止のため、スイッチOFFで消灯します。



**ガス栓:**

二次災害防止のため、開状態から閉状態にします。



**支援物資:**

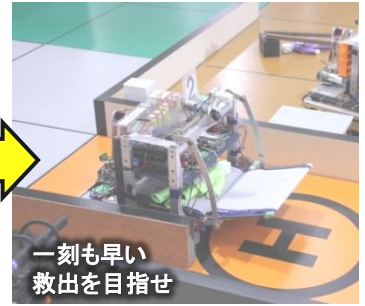
飲料を模擬した物品を、要救助者に提供します。



競技フィールドは、青サイド(左側)と赤サイド(右側)があり、各1チームずつが、それぞれ独立して競技を進めます。レスキューロボットコンテストでは、常に新しい要素を取り入れており、競技の詳細は開催ごとに変化しています。

## 競技の流れ

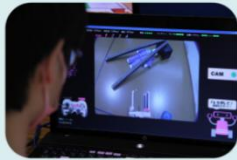
ロボットはスタートエリアからダミヤン救出に向かい、フィールド内にいるダミヤンを救出エリア（ゴール）まで搬送します。チームはロボットを目視できず、ロボットに搭載されたカメラ映像をもとに、コントロールルームから遠隔操作します。



## ロボット

ガレキを乗り越えたり、掴んだりする能力が求められます。また遠隔操作のためのカメラやセンサー、電子機器が多数搭載されています。

**センサ:**ロボットの目となる部分です。移動や作業のために周囲を確認したり、ダミヤンの識別などに利用します。



**アーム:**ダミヤンを助けたり、ガレキを動かすための腕です。サーボモータを用いて複雑なアームを製作するチームもあります。



**レスコンボード:**ロボットの遠隔操作を実現させる装置です。独自技術により距離を感じさせない遠隔操作が可能です。



**マイコン:**センサ情報を加工したり、複数のモータを同時に動作させるなど使用されています。

**バッテリー:**ロボットの動力源です。レスコンでは安全性の高いリチウムリン酸鉄電池の使用を推奨しています。



**移動機構:**移動するための部分です。路面や目的に応じて、車輪・無限軌道・脚などから選択されます。



## ダミヤン

ダミヤンは要救助者を模した人形です。内蔵された各種センサで、要救助者が救助活動中に感じる苦しさ（身体の圧迫や曲げ、衝撃・振動など）を検出し、レスキュー活動を評価するものです。



(がんばってますがな...)

「なににせよ、はよ助けてな！」  
迅速な救助も、大切なことです

「落ちたら、怪我してまで」  
衝撃が加わると、要救助者は  
更なる危険にさらされます

「そこ、痛いんやけど...！」  
ロボットが要救助者を握り過ぎたり、  
首に負荷をかけないよう、きをつけて

## 資料2:レスキューロボットコンテストの経緯

### 1995年1月17日 阪神・淡路大震災

レスキューシステムの不備が露呈

これを契機に日本のレスキューロボットの研究が始まった

研究開始後、人々の関心の薄れが早いこと痛感

### レスキューロボットコンテストの提案

息の長い研究開発と、その裾野を広げるため、ロボット競技による啓発を提案

2000年プレ大会、2001年第1回を開催、2004年以降は毎年神戸市で本選を開催

### 25年間の実績

競技参加者: 511チーム、メンバー数 約5,000人、来場者数: のべ100,637名

(2003~2025年の合計、「非公表」「無観客」「中止」を除外)

### 社会からの評価

2016年10月 第7回 ロボット大賞(審査員特別賞)

2019年 1月 第十四回 競基弘賞(特別賞社会貢献賞)

2019年12月 2019年度計測自動制御学会 システムインテグレーション部門 部門功労賞



コグナビ杯レスキューロボットコンテスト2025競技会本選(神戸サンポホール)での、交流会の記念写真です。競技会参加チームは予選25チーム、本選14チーム。全体で200名近い学生・社会人がチームとして参加。運営や製作スタッフを加え、300人以上がレスキューロボットコンテストの活動を行っています。

## 資料3:レスキューロボットコンテストの将来構想

レスキューロボットコンテスト実行委員会は、「技術を学び、人と語らい、災害に強い世の中をつくる」という理念の下に、2050年の長期目標を念頭において動いています。

### 長期目標

2050年

#### 競技会を中心として活動を広げ、若い世代と共に、「災害に強い世の中」の実現を目指します

- 防災・減災に関する情報を発信し、学びと交流の場を提供します
- ロボットやAIの技術を救助の現場に実装する機会を創出します
- 「やさしさ」を大切に作る人材を育成し、社会へ送り出します

### 中期目標

2030年

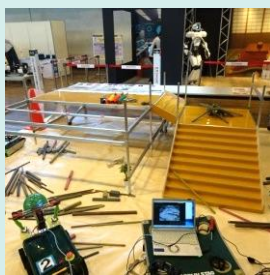
- 防災・減災、ものづくりについてより魅力的に伝える競技会を推進します
- 災害の多様性や遠隔操縦の困難性に取り組む、技術課題を設定します
- レスコン出身者の活躍をアピールします
- 参加チームを日本全国へ広げます

### 今期目標

2026年

- チームと実行委員会が共にチャレンジできる競技会基盤を整備します  
～新型競技フィールドの開発、新型ダミヤンの研究(2027年実装予定)～
- 参加チームが成果を振り返り、ともに試行錯誤できる環境を整備します  
～ウェブサイトやSNS企画の強化、競技同時録画の活用～
- チームと協賛企業そして社会とが、交流・意見交換できる場を目指します。  
～Slackを活用した団体・企業PR機会の提供～

### 2025年10月現在 進行中のプロジェクト(一例です)



被災建屋をイメージした競技フィールドです。組み立て式で、可搬性がよいものを開発中です。夏に開催する競技会のほか、地域の防災イベントへ出展し行うサテライト開催や地方巡演も検討しています。

各チームが製作したロボットや救助活動を評価するPCシステムや、「ダミヤン」をリニューアル&機能UPする活動を進めています。

各チームの活動を生配信し、多くの方が視聴できるシステムや、チームが成果の振り返りができるシステムを構築中です。

## 資料4:レスキューロボットコンテストの軌跡

開催年	大会名	参加チーム数	本選実施場所	本選出場数	配付冊数	トピックス
2000	レスキューロボットコンテスト プレ大会	6	グランキューブ大阪(大阪 国際会議場)、大阪市	非公表	—	1999年3月 ロボットと教育研究会により「レスキューロボット コンテストの提案」 1999年12月24日 実行委員会が発足 大須賀公一(当時 京都大学大学院 助教授)を実行委員長 として、競技会が始まる
2001	第1回レスキューロボット コンテスト	12	グランキューブ大阪(大阪 国際会議場)、大阪市	非公表	—	「ロボフェスタ関西2001(7/20～29)」の公認競技のひとつと してコンテストを開催 7/9に試走会を、株式会社タミヤ 本社スペクトラムホール にて開催
2002	第2回レスキューロボット コンテスト	12	よみうり文化センター、 大阪府豊中市	非公表	—	ロボフェスタ関西から独立して再スタート 千里中央のよみうり文化センター ホールにて開催 株式会社読売新聞社大阪本社が主催として参画 (第2回～第12回)
2003	第3回レスキューロボット コンテスト	12	よみうり文化センター、 大阪府豊中市	1,213名	—	競技会本選に併設するロボット体験イベントを開催 (現在は「あそぼう!まなぼう!ロボットランド」として発展 開催)
2004	CYBERDYNE杯 第4回レスキューロボット コンテスト	14	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	5,200名	—	升谷保博(当時 大阪大学大学院 助教授)が、2代目実行 委員長に就任(第4回～第8回) 神戸市が主催に参画(第4回～現在)、読売テレビ放送 株式会社が主催に参画(第4回) CYBERDYNE株式会社が特別協賛(第4回)
2005	アールエスコンポーネッツ杯 第5回レスキューロボット コンテスト	20	神戸国際展示場、 神戸市中央区	9,808名	—	震災から10周年 神戸からの発信事業 「ロボット×レスキュー2005」の中核としてイベントを開催 兵庫県が主催として参画(第5回～第13回) アールエスコンポーネッツ株式会社が特別協賛として参画 (第5回～第8回)
2006	アールエスコンポーネッツ杯 第6回レスキューロボット コンテスト	20	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	5,980名	—	株式会社神戸商工貿易センターが主催として参画 (第6回～第13回) 競技会の開催規模拡大に伴い、試走会を「競技会予選」 として開催(第6回～現在)
2007	アールエスコンポーネッツ杯 第7回レスキューロボット コンテスト	20	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	5,892名	—	ロボット操作に無線LANシステムを正式採用 新型レスキューダミー(第2世代)を導入)
2008	自治体消防60周年記念 アールエスコンポーネッツ杯 第8回レスキューロボット コンテスト	20	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	6,027名	—	自治体消防60周年として競技会を開催 神戸からの発信ネットワークが主催として参画(第8回) サンリツオートメーション株式会社が特別協力 (第8回～現在、第15回からはオフィシャルサプライヤー) として参画
2009	サンリツオートメーション杯 第9回レスキューロボット コンテスト	20	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	5,905名	—	土井智晴(当時 大阪府立工業高等専門学校 助教授)が、 3代目実行委員長に就任(第9回～第13回)
2010	第10回レスキューロボット コンテスト	20	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	5,100名	—	阪神・淡路大震災から15年、「ロボット×レスキュー2010」 としてイベントを開催 競技会のほか市民フォーラムや工作教室、操縦体験を 開催 第10回の開催記念として、優秀チームを台湾に招待し、 ロボットのデモを開催
2011	inrevium杯 第11回レスキューロボット コンテスト	20	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	6,002名	—	東京エレクトロデバイス株式会社が特別協賛として参画 (第11回～第14回、第15回～20×21までゴールドスポン サー) 2011年3月 東日本大震災が発生 本選会場では震災復興応援特別企画を開催 (第11回～第13回)
2012	inrevium杯 第12回レスキューロボット コンテスト	20	神戸サンボーホール、神 戸市中央区	5,884名	—	新型レスキューダミー(第3世代)を導入、人間に近い体格 へ改良 救助時の首部支持を重要視し、ダミー首部に評価用セン サーを搭載
2013	inrevium杯 第13回レスキューロボット コンテスト	26	神戸サンボーホール、神 戸市中央区	5,921名	—	これまで1開催であった競技会予選を、西日本と東日本の 2会場で開催 東日本での競技会予選を、東京都立産業貿易センター 台東館(東京都台東区)で開催
2014	inrevium杯 第14回レスキューロボット コンテスト	24	デザイン・クリエイティブセ ンター神戸(KIITO)、 神戸市中央区	1,224名 ※	—	横小路泰義(当時 神戸大学大学院 教授)が、4代目実行 委員長に就任(第14回～第18回) 競技会予選を東京都立産業技術高専荒川キャンパス (東京都荒川区)にて開催(第14回～第17回、第19回) ※台風11号の影響により、競技会本選2日目の競技を 中止

開催年	大会名	参加チーム数	本選実施場所	本選来場者数	配信視聴数	トピックス
2015	inrevium杯 第15回レスキューロボット コンテスト	25	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	5,131名	—	2015年1月に競技会の発展を目的に「一般社団法人 アール・アンド・アールコミュニティ」を設立 神戸サンボーホールが主催として参画(第15回～第19回) オフィシャルサポーター新システム導入
2016	inrevium杯 第16回レスキューロボット コンテスト	24	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	5,052名	—	2016年4月 熊本地震が発生、実行委員有志による熊本 現地視察を7月に実施 競技会本選の会場では「震災復興応援特別企画」を実施
2017	自治体消防制度70周年記念 inrevium杯 第17回レスキューロボット コンテスト	24	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	5,367名	—	2016年10月「第7回ロボット大賞 審査員特別賞」を受賞 競技会予選の地方巡演を開始(第17回～第19回) 西日本での競技会予選を、大阪府立北大阪高等職業 技術専門学校(大阪府枚方市)で実施 韓国ロボット教育コンテンツ協会を招聘、本選会場での 講演とデモ競技を実施
2018	inrevium杯 第18回レスキューロボット コンテスト	24	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	7,356名	—	2018年7月 西日本豪雨(平成30年7月豪雨)が発生 東日本での競技会予選を、愛知工業大学(愛知県豊田市) で実施
2019	inrevium杯 第19回レスキューロボット コンテスト	24	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	6,542名	—	2019年1月「第14回 競基弘賞(特別賞社会貢献賞)」を 受賞 奥川雅之(当時 愛知工業大学 准教授)が、第5代実行委 員長に就任(第19回～2023) 西日本での競技会予選を、イオンモール岡山 おかやま 未来ホールにて開催 本選会場にて、岡山市消防局が西日本豪雨に関する 特別講演を実施
2020	第20回レスキューロボット コンテスト(仮)	(20)	神戸サンボーホール、 神戸市中央区 【実施予定地】	中止 ※	—	2019年12月「2019年度計測自動制御学会システムインテ グレーション部門 部門功労賞」を受賞 新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的大流行が発生 ※新型コロナウイルス感染拡大のため、競技会予選・本選 の開催を断念
2021	inrevium杯 レスキューロボットコンテスト 20×21	17	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	無観客 ※	2,458回	レスコン20周年記念として、レスコン20×21と称して開催 競技フィールドとルールを一新、より現実のレスキューに 近づいた競技に改良 競技会予選を行わず、スタートアップミーティングとして ロボット製作状況を発表 ※本選は無観客開催、チームはリモート競技課題を オンラインで発表
2022	レスキューロボットコンテスト 2022	16	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	3,508名	2,256回	競技会予選のオンライン化、競技課題にロボットで取り組 む動画をオンラインで評価 一般来場者を迎えた競技会を3年振りに開催 YouTube配信を含めたハイブリッド開催が本格始動
2023	コグナビ杯 レスキューロボットコンテスト 2023	20	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	4,781名	2,018回	株式会社フォーラムエンジニアリングがゴールドスポンサー として参画(2023～現在) 応募チーム・来場者数が従来規模に戻り、市民向け イベントとして復活
2024	コグナビ杯 レスキューロボットコンテスト 2024	26	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	5,324名	2,225回	二井見博文(当時 産業技術短期大学 教授)が、6代目 実行委員長に就任(2024～現在) 2024年1月 能登半島地震が発生 過去最大級の26チームが競技会に応募
2025	コグナビ杯 レスキューロボットコンテスト 2025	25	神戸サンボーホール、 神戸市中央区	3,506名	1,324回	神戸市の防災イベント「レジリエンスセッション 震災と未来 のこうべ博」に出展、KIITO(神戸市)会場にて、レスコンの PRとロボット操縦体験を実施 コロナ禍以降、初の競技会予選を、咲洲モリーナ(大阪市) で実施

参加チーム数:511チーム、メンバー数 約5,000人(2000～2025年)

本選来場者数:100,637名(2003～2025年、「非公表」「無観客」「中止」を除外)

これまでに511の挑戦があり、延べ10万人を超える来場者があるその歩みを見守ってきました。

——技術を学び、人と語らい、災害に強い世の中をつくる——

この理念のもと、レスキューロボットコンテストはこれからも、人と技術を未来へつなげていきます。

## お問い合わせ先

一般社団法人レスキューロボットコンテスト 〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町3-3-5-1

代表理事 升谷 保博(大阪電気通信大学 教授)

事務局 森 和也 E-mail: [corporation@rescue-robot-contest.org](mailto:corporation@rescue-robot-contest.org)